

# 社会貢献活動

企業理念の根本哲学「人間愛」に基づき、「住文化向上」「次世代育成」「環境配慮」を柱に、本業を通じた活動はもちろん「従業員のボランティア活動、チャリティー参加」「NPO・NGOとの協働、活動支援」「教育機関と連携した教育支援活動」など、地域に密着した活動を続けています。

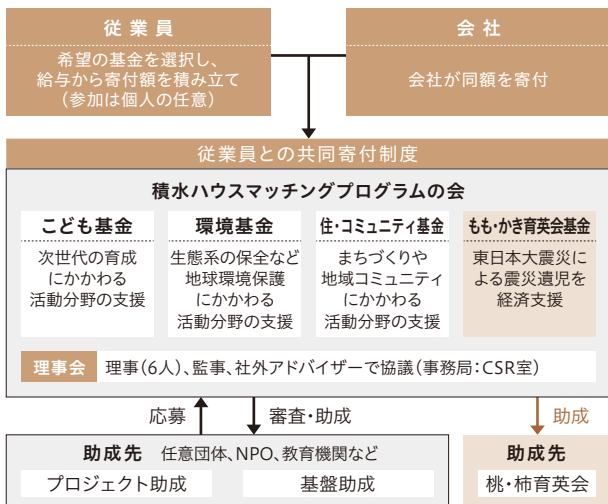
## 従業員と会社の共同寄付制度 「積水ハウスマッチングプログラム」

当社グループは、従業員と会社との共同寄付制度「積水ハウスマッチングプログラム」(会員数約3600人)を2006年度に開始し、サステナブル社会の構築に寄与する社会的活動を担うNPOなどの団体を支援しています。この制度は、従業員が給与から希望する金額(1口100円)を積み立て、それに会社が同額の助成金を加えて寄付する仕組みです。「こども基金」と「環境基金」の二つの基金をはじめ、2011年には東日本大震災による震災遺児を経済支援する「桃・柿育英会」(実行委員長:建築家 安藤忠雄氏)を寄付先とする「もも・かき育英会基金」を設置。2015年には制度創設10年を機に「住・コミュニティ基金」を設置しました。

2016年度は、「こども基金」13団体(プロジェクト助成11団体・基盤助成2団体)に1350万円、「環境基金」11団体(プロジェクト助成8団体・基盤助成3団体)に864万円、「住・コミュニティ基金」2団体(プロジェクト助成2団体)に170万円、合計26団体・2384万円の助成を実施。また、「もも・かき育英会基金」では、2016年度に1360万円(累計:6900万円)を寄付。これまで延べ200以上の団体に2億円を超える助成を実施しています。



### 「積水ハウスマッチングプログラム」の仕組み



### 【こども基金】助成団体コメント

#### 陸前高田市内における子どもの居場所づくり活動「みちくさルーム」の実施

特定非営利活動法人パクト(子ども支援事業担当理事 萩原 史氏)

岩手県陸前高田市では、東日本大震災から5年半が経過した現在でも、子どもが伸び伸びと遊べる場所が限られています。そこで「みちくさルーム」では、陸前高田の子どもたちのための居場所づくりの活動を市内4カ所(広田町、気仙町、矢作町、小友町)で実施しています。陸前高田の子どもたちが、自分の生まれた故郷で、一つでも多くの「楽しい思い出」をつくることで、地元への愛着を深め、将来的にまちの復興に積極的にかかわってくれたら…と願いながら日々活動しています。



みんなで輪になって仲良く遊ぶ子どもたち

### 【環境基金】助成団体コメント

#### 八王子滝山里山保全地域での里山サイクル復元活動

特定非営利活動法人自然環境アカデミー(事務局長 野村 亮氏)

当会では「積水ハウスマッチングプログラム」の助成を受け、八王子滝山里山保全地域における里山保全活動を進めています。耕作されなくなり、外来植物が繁茂する状態になってしまった水田跡地に水田を復活させ、かつての田園風景と田んぼの生態系を取り戻そうとしています。活動には多くの積水ハウスグループの方々にも参加いただいています。少しずつですが、ホタルやトンボ、カエルなどの生き物が増えてきています。美しい里山景観と生き物のにぎわいを、ぜひ多くの方々に直接感じていただきたいと願っています。



復活した水田で田植え

### 【住・コミュニティ基金】助成団体コメント

#### 伊勢河崎・歴史的町屋リノベーションモデル事業2016

特定非営利活動法人伊勢河崎まちづくり衆(理事長 高橋 徹氏)

当事業は、伊勢河崎地区の歴史的町屋のリノベーションに、地元の伊勢工業高等学校建築科の生徒、皇學館大学の学生たちと連携して、モデル事業として取り組むものです。リノベーションツアー、町屋調査、リノベーション講座、空き家掃除&ランチミーティングや、高校生による具体的なリノベーション提案ワークショップを行っています。若い人たちが当事業を通してまちを知り、まちの課題に取り組み、活用案を提案することで、まちの活性化を促すとともに、将来のまちづくり活動の後継者として育ていくことにつながるものと位置付けています。



空き家の清掃中に、床下で眠っていた「炉」を発見

### 「住空間 eco デザインコンペティション」を開催

全国の建築・デザイン系の大学生・大学院生を対象に開催している産学共同コンペ「Real Size Thinking 住空間 eco デザインコンペティション」に2005年度から参画しています。今後の住空間のあり方を探るとともに、産学の連携強化、学生間の交流促進、若いデザイナーの育成を目的に実施しています。2016年度は全国28大学から150作品の応募がありました。



最優秀賞  
「Fluffy Scape」  
神戸大学大学院/  
橋本阿季さん・  
森下孝平さん



優秀賞  
「Tokyo In (Di)visible」  
東京大学大学院/  
Hadin Charbelさん・  
Deborah Lopezさん

### 「弁当の日」応援プロジェクトに参画

「弁当の日」は、献立づくりから、買い出し、調理、弁当詰め、片付けまで、親は一切手伝わず、すべて子どもたち自身で行う取り組みです。元小学校校長の竹下和男氏が提唱する「弁当の日」の取り組みは、既に1700校以上の小中学校で実施されており、この取り組みを普及啓発するプロジェクトに、当社も応援企業として参画しています。

### 全国の学校やイベント会場で 環境教育プログラムを実施

当社グループの「エコ・ファーストの約束」である「CO<sub>2</sub>排出量削減」「生態系ネットワークの復活」「資源循環の取り組み」をテーマに、暮らしの中でできる省エネや生態系保全、資源の有効活用の大切さを学ぶ三つの体験型環境教育プログラムを全国各地の学校への出張授業やイベントなどで実施しています。

## TOPICS

### 芸術文化の発信拠点となる「絹谷幸二 天空美術館」を梅田スカイビルに開設

当社は、芸術文化の振興を目指し、日本のアフレスコ画の第一人者であり、世界を舞台に活躍する画家・絹谷 幸二氏の「絹谷幸二 天空美術館」を、本社のある梅田スカイビル内に、2016年12月に開設しました。

絹谷氏は、絵画創作活動にとどまらず、外務省主催の「日本ブランド発信事業」に参加、教育活動として若手画家対象の「絹谷幸二賞」の創設にかかわり、また文化庁の「こども夢・アート・アカデミー」にも参加されています。当社は、これらの幅広い活動・思想に共感し、当美術館で芸術文化の支援を行っています。

「絹谷幸二 天空美術館」は、象徴的なプロローグ展示と、3D映像による絵画の世界を空間として体験できる「シンボルゾーン」、絵画のイメージに合わせた青や赤の「展示ゾーン」、制作過程の絵画を見ることができる「アトリエ」、子どもの絵画教室などを開催する「ワークショップスペース」などで構成しています。

美術館のある梅田スカイビルは、1993年3月に竣工した40階建て2棟連結の斬新なデザインの、オフィスと商業施設から成る複合施設です。2008年、英国タイムズ紙で「世界の建築物20選」として紹介され、世界の観光客の注目を集めています。最上部の「空中庭園」には、2016年度は過去最高の139万人（うち海外から101万人）が来場しました。

国内だけではなくインバウンドに対しても、世界的観光スポットとなる強力なコンテンツとして、独創性にあふれた唯一無二の美術館をつくることで「四半世紀を超え、半世紀に向けてさらに魅力を増していくビル」として、梅田スカイビルの価値向上を図り、地域の活性化にも貢献していきます。



「大阪城満開日乃出」



シンボルゾーン



梅田スカイビル